

## 【 HP Operations agent 11.xx.xx 製品機能の停止方法 】

対象製品 Ver. : 11.xx.xxx 以降

### 1. はじめに

HP Operations Agent 11.xx.xxx (以下、HPOA) は以下の 3 つの製品が提供していた機能を 1 つのパッケージとして統合した製品です。

- HP Operations agent software(以下、OVOA)
- HP GlancePlus software(以下、GlancePlus)
- HP Performance agent software(以下、OVPA)

HPOA をインストールすると、上記 3 製品の機能を提供するプロセスがそれぞれ起動します。

ただし、Windows 版のみ HP GlancePlus software(GlancePlus) の機能は提供されていません。

お手持ちの製品使用ライセンスに従い、使用することのない製品については、以下の方法で停止することが可能です。

インストール先マシンリソースを適切に使用すると観点より、当方では使用しない製品機能、プロセスは極力停止することを推奨させて頂いております。

### 【注意】

1) Ver. 11.0x.xxx の HPOA については、機能停止可能な条件として以下のパッチがインストール済みであることが前提となります。

(以下に示すパッチ、もしくはそれ以降にリリースされたパッチがインストールされていれば機能停止の操作は可能です。)

HP-UX : OAHPUX\_00002 / Linux : OALIN\_00002 / Solaris : OASOL\_00002  
/ AIX : OAAIX\_00002 / Windows : OAWIN\_00002

2013 年 4 月時点では、

HP-UX : OAHPUX\_00013 / Linux : OALIN\_00013 / Solaris : OASOL\_00901  
/ AIX : OAAIX\_00013 / Windows : OAWIN\_00013

(このパッチをインストールすることで、HPOA 11.0x.xxx の Ver. は、11.05.005 になります。)

が最新のパッチになります。(製品保守の面より、最新の製品パッチのインストールを推奨します。)

2) 製品機能の停止を実施した以降に、新たにリリースされたパッチを Ver. 11.0x.xxx に  
対してインストールすると、既に設定していた

製品機能の停止の設定が解除されます。

そのため、Ver. 11.0x.xxx については、パッチ適用の都度、以下の "2. 製品機能の  
停止方法" を実施して頂く必要があります。

なお、Ver. 11.1x.xxx の HPOA については、上記前提条件はありません。

(Ver. 11.1x.xxx を導入して直ぐに機能停止の設定を行うことができます。)

## 2. 製品機能の停止方法

実行ファイルの格納先ディレクトリは以下の通りです。

HP-UX / Linux / Solaris の場合 : /opt/OV/bin, /opt/perf/bin

AIX の場合 : /usr/lpp/OV/bin, /usr/lpp/perf/bin

Windows の場合 : %ovinstalldir%bin

以下の手順は、HP-UX ベースで説明しています。

### 2. 1 GlancePlus のみ使用する場合

OVOA の停止、OVPA の停止を行う必要があります。

#### (1) 製品の停止

以下の手順で、製品を停止させます。

```
# /opt/perf/bin/ovpa stop
# /opt/perf/bin/midaemon -T
# /opt/perf/bin/ttd -k
# /opt/perf/bin/pctl stop ---> *1
# /opt/OV/bin/ovc -kill
```

#### (2) OVOA の自動起動を抑止

以下のコマンドを実行し、OVOA の自動起動を抑止します。

```
# /opt/OV/bin/ovcreg -del rtmd
# /opt/OV/bin/ovconfchg -ns ctrl -set START_ON_BOOT false
```

#### (3) 以下のファイルを編集し、OVPA の自動起動を抑止します。

HP-UX : /etc/rc.config.d/ovpa

Linux : /etc/sysconfig/ovpa

上記ファイルをテキストエディタなどで編集します。

OVPA\_START=1

↓

OVPA\_START=0

#### (4) GlancePlus の起動

glance を実行し CUI 版 glance が画面表示されることを確認して下さい。

## 2. 2 Glance+Pak(GlancePlus, OVPA の 2 製品)を使用する場合、または、OVPA のみを使用する場合

OVOA の停止を行う必要があります。

#### (1) 製品の停止

以下の手順で、製品を停止させます。

```
# /opt/perf/bin/ovpa stop
# /opt/perf/bin/midaemon -T
# /opt/perf/bin/ttd -k
# /opt/perf/bin/pctl stop --> *1
# /opt/OV/bin/ovc -kill
```

#### (2) OVOA の自動起動を抑止

以下のコマンドを実行し、OVOA の自動起動を抑止します。

```
# /opt/OV/bin/ovcreg -del rtmd
```

#### (3) 製品 (GlancePlus, OVPA) の起動

以下の手順で、製品を起動させます。

```
# /opt/OV/bin/ovc -start
# /opt/perf/bin/ovpa start
```

/opt/perf/bin/perfstat を実行し、OVPA に関するプロセスが起動していることを確認して下さい。

glance を実行し CUI 版 glance が画面表示されることを確認して下さい。

#### \*1: perfd の取り扱いについて

perfd は、Ver. C.05.00.000 より実装された GlancePlus の新たな機能 (プロセス) です。従来より提供されている GlancePlus の機能のみを使用する場合には、この perfd は起動させる必要はありません。

上記手順に於いても、**perfd** は使用しないことを前提として手順を説明しています。  
**perfd** を使用される場合には、それぞれの手順中の”製品の起動”の一番最後に以下のコマンドを実行して下さい。

`/opt/perf/bin/pctl start`

また、**perfd** を使用しない場合には、**perfd** の自動起動を抑止する必要があります。  
抑止方法については、こちらを参照して下さい。